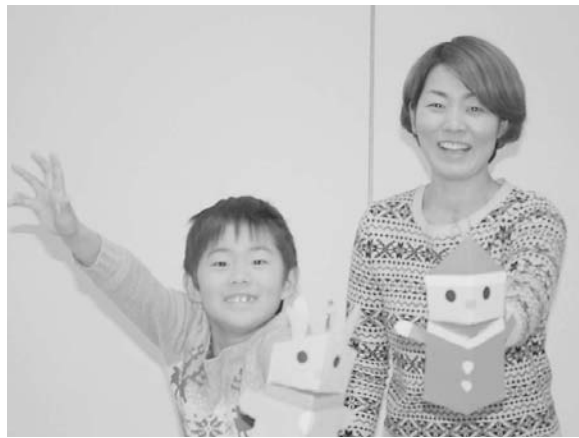


# 生涯学習 がんばっています!

今回は、生涯学習講座の「ふれあいひろば紙芝居と工作」に参加して、一緒に工作と紙芝居を楽しんだ親子の声を紹介します。

## 親子で楽しむ工作

秋田裕子さん、将来くん



「お母さん、これ見て！」我が家のわんぱく息子も小学生になり、段ボールや広告の紙を使って、迷路や基地などを楽しそうに作る姿が増えてきました。もともと手先があまり器用でなかった息子。一緒に工作をする機会があれば、きつと楽しいだろうなと思いついて親子で参加することにしました。ふれあいひろば「紙芝居と工作クラブ」は、供用施設で月に一回行っています。部屋に入ると「ひさしぶりだね」と先生たちが笑顔で出迎えてくれます。

これまでに作ったものは、動物うちわ、トイレトパーパーロケット、ぱくぱくサントクロースなど、どれもアイデアに溢れた逸品ばかりです。毎回「こんな楽しい工作をどこで見つけてくるのだろう」と感

心させられます。作り始めると、おしゃべりもそこそこに、どの子も熱中して作り始めます。

工作に目覚めたといえ、もとは器用ではない息子。最初は、途中で作るのに飽きてしまうこともありましたが、そのうち最後まで熱中して作品を作り終えることが増えてきました。

一番喜んで作った工作は、「浮沈子」というペットボトルとプラスチックの醤油入れを使ったおもちゃです。水の入ったペットボトルを握ったり手を緩めたりすると、不思議なことに中に入ったサカナが沈んだり浮いたりします。醤油入れの中に水を入れることでサカナを浮き沈みさせるのですが、これがなかなか難しい。息子も先生に教わりながら、何度も水を調節しては入れていました。赤や青の色で塗ったサカナを浮かべると、とても気持ち良さそう。空想の世界に浸りながら、ペットボトルに海藻やゆらゆらと動くタコなど熱心に描いていました。作品が出来上がると「ぼくの水族館ができたよ」と嬉しそうに見せてくれました。

工作が終わると、紙芝居の時間が始まります。先程まで作り終わった工作で遊んでいた子ども達も、すぐにお話の世界に引き込まれていきます。じつと聞き入っていると、あつという間に時間は過ぎ、その日のクラブは終了します。

ついつい日々の生活に追われてしまいがちですが、月に一回のクラブの時間は、親子で一緒に物作りを楽しんだり、物語に浸ったりする贅沢な時間となっています。工作が好きな子、親子で物作りする時間を楽しみたい人におすすめのクラブです。

## スポーツは難しい

浜田瑛太くん

### キ ッ ス レ ポ ー ト

ぼくは、今、剣道をやっています。剣道はとってもむずかしいスポーツです。昔はとても強いチームだったんだけれど、今は人数が少なく、毎日の練習はとってもつかれます。「もう、いやだ。」という日もありますが、出来たときや試合で勝ったりしたときは、とってもうれいんです。

今思うと、何のスポーツでも、むずかしいなあと思います。たとえば、サッカーや野球なども、とってもむずかしいスポーツです。とくに、剣道は、団体戦や個人戦もあり、他の道場はきつともつときびしいと思います。だから強いのだと思います。

三月二十日に試合があります。ぼくたちのチームは一月十五日にも試合があり、そのときは、三試合目も勝ったら県大会に出れるとなっていて、ぼくたちは、いけることになりました。県大会なので、とっても強いチームがいっぱいいると思います。なので、一試合目は勝てるようにがんばりたいです。

今まで二年生から五年生までやってきて、これまで強くなってくれたのは、先生と親だと思っています。ぼくは、あらためて感謝しています。



このページについての問合せ  
396 教育委員会事務局生涯学習係